

拓け！自らの可能性

～社会参加に向けて～

進路だより 第4号

令和6年3月1日発行

だて支援学校キャリア支援部

校長あいさつ

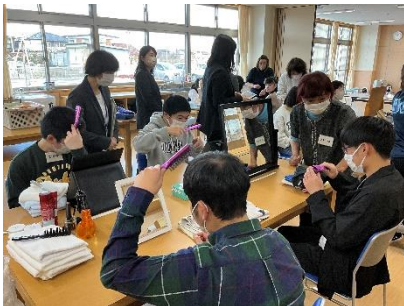


日頃より、本校のキャリア教育への御理解と御協力をいただき感謝を申し上げます。昨年度、この号で、「キャリア発達」についての記述をしました。本校小学部では、その「キャリア発達」を具現化し、児童が自ら学び、自ら考え行動する授業を展開しています。令和6年1月16日昼頃、まず、撮影担当の先生が校長室に入り、その後元気な声で「失礼します、郵便をお届けにまいりました。」と小学部3年生から6年生までの児童が来室しました。私への郵便物の配達です。代表の児童以外にも直接手渡したという思いのある児童が多いことに驚かされます。私は郵便物を受け取り「ありがとうございます。」とお礼をいうと満面の笑みで、お辞儀をしてくれました。これは生活科の授業の単元で「モモの里郵便局」での一コマです。実際に自分で体験して、その役割

を果たしていく学びとなります。実際の郵便局の見学から始まり、郵便局での郵便物の配達に関する業務を確認し、だて支援学校内で「モモの里郵便局」を開局し、必要な役割を決めていきます。役割の中には「ポスターによる告知」、「切手のデザイン」、「郵便物の集荷」、「仕分け」、「配達」などがあり、各児童が自分のやりたい役割を自ら選び、行います。つまりこれは、「キャリア発達」の定義でいうところの「自分の役割を果たす」にあたります。担当した教員の週案の反省には「モモの里郵便局の振り返りをしたとき、頑張ったことだけではなく来年度の抱負も書いた。来年度は6年生だからみんなの手本になれるよう〜」、「宛先を間違わないようによく見て〜、消印作業でははみ出さないように、切手に少しかかるように押す〜」等々、児童らの学びのようすがありました。学校教育目標のひとつである「相手を思いやり協力できる人」が着実に育っていることをうれしく思います。

小学部児童がこの授業で「学んだこと」は、キャリア教育の好事例であると考えます。今後も自ら学び、自ら考え行動する力を身につけて、次のステージで活躍を祈るばかりです。

身だしなみ講座



令和6年2月8日に本校にて高等部3学年生徒を対象に「身だしなみ講座」を開催しました。

卒業を前に、身だしなみのポイントや大切さについて、より理解を深めるために、外部講師として、保原美容組合から5名の皆様にいらしていただきました。

内容としては、正しい洗顔と化粧水の付け方を実際に教えていただきながらやってみました。その後、ヘアセット、メイクなどをさせていただきました。講師の方に自分の希望の髪型を伝えたり、メイクの方法を教えていただいたりしながら、やりとりを楽しむ様子が見られました。最後には、発表会として保護者の皆様に披露し、大きな拍手をもらいました。

生徒からは「化粧をしたら自分じゃないみたいだった。」「家族に格好いい、と言ってもらえた。」「これからも自分で身だしなみに気をつけて、すてきな大人になりたい。」などの感想が聞かれました。

講師の皆様、温かい雰囲気の中で、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

- ◇ 今年度の卒業生は、小学部8名、中学部11名、高等部11名の児童生徒です。
 高等部卒業生11名は進路先が決まり、4月からは自分で選んだ道を歩き始めます。それぞれの地域の中で、自分の役割を果たしながら、健康で充実した毎日を過ごしてほしいと願っています。
 令和5年度の各学部卒業生の進路先状況は、以下の通りです。 進路指導主事 江田 綾

○小学部卒業生 8名

進学（8）	本校中学部進学予定（8名）
-------	---------------

○中学部卒業生 11名

進学（11）	本校高等部進学希望（10名） 高等学校進学（1名）
--------	------------------------------

○高等部卒業生 11名

分類	進路先区分	人数	進路予定先
就職	企業	5名	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエルシアオアシス株式会社（2） ・株式会社いちい ・株式会社ヨークベニマル ・社会福祉法人信達福祉会
ピ ス 事 業 所 障 害 者 総 合 支 援 法 に 基 づ く 福 祉 サ ー !	就労移行支援事業所	0名	
	就労継続支援A型事業所	0名	
	就労継続支援B型事業所	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人 Sosora garden モンステラ ・NPO法人ポネール障がい者就労支援「福祉ハウスポネール」 ・社会福祉法人あぶくま福祉会 就労継続支援B型事業所 ほどはら授産所 ・有限会社すずらん工房 すずらんベーカリー
	生活介護事業所 (併用含む)	2名	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ひろせ福祉会 インクルーシブたかこ（2） ・合同会社スマイルスマイル 杜の笑
	共同生活援助事業所	0名	

年金セミナー



令和5年12月19日、本校高等部3年生と保護者を対象に年金セミナーを開催しました。

東北福島年金事務所から2名の方に講師として来校していただき、公的年金の仕組みについて御説明をいただきました。前半は、高等部3年生を対象に、分かりやすい資料を使って、公的年金の仕組みや申請の時期などについてお話をいただきました。後半は、保護者を対象に具体的な障害基礎年金の申請資料などを御呈示いただき、詳しく御説明をいただきました。

参加した皆様から感想をいただきましたので、一部を御紹介します。

- ・分かりやすい資料と説明をしていただいたので見通しをもつことができ安心した。
- ・申請に向けて早めに資料の準備をしていきたい。
- ・今後もぜひ年金セミナーを開催してほしい。

次年度も、保護者の皆様からの要望を聞きながら研修会を企画していきます。

高等部卒業生から

3年1組 E・M

私は、自分の目標を達成するために、在学中の2年間、2つのことに取り組みました。

まず、様々なことに挑戦し、経験してみました。私がこの学校に転入してからは、生徒会長や学校祭実行委員会委員長、現場実習時の自力通勤などに挑戦しました。これまでの私でしたら、なかなかその一歩を踏み出すことができませんでした。しかし、担任の先生の後押しなどもあり、挑戦してみようという決断をすることができました。

次に、実習・就業場所を決めたことです。私は2年生の時、来年の実習をどこで行うか悩んでいたため、進路指導の先生に相談しました。進路についての悩みを聞いていただいたところ、1つの企業を薦めていただきました。私はすぐに見学し、実習先を決めることができました。その後2度実習を行い、この仕事が自分に合っていると思ったので、面接を受けました。面接中は緊張しましたが、1週間後、内定通知をいただきました。その時は嬉しさとほっとした気持ちになりました。

4月からは社会人として、「自ら明るい挨拶を行う」「困ったことがあったらすぐに報告・相談をする」ことを目標に努力していきたいと思います。

3年2組 S・M

だて支援学校で頑張ったことは、現場実習です。私は、就労継続支援 B 型事業所で 2 回実習をしました。

そこではベビーカステラの生地作りと、お弁当の仕込みと、ラベルはりを行いました。

ベビーカステラの生地作りでは、かぼちゃの皮むきと粉量りをしました。お弁当の仕込みでは、たきこみご飯のおにぎり用にまいたけをちぎったり、こんにゃくを切ったりしました。

その中で特に頑張ったことは、かぼちゃの皮むきです。冷凍してあるかぼちゃは少し冷たかったのですが、ボウルいっぱいにおくことができました。「皮むきが速いね。」と担当の人にほめられて嬉しかったです。

卒業後は主に調理の仕事に関わります。これからも頑張りたいです。

3年3組 Y・J

私は3か所で校外実習をしました。

2年生の実習では、疲れてしまうことが多かったです。実習をして、体力が必要だと思いました。

学校では、体力づくりのために、朝のトレーニングや体育をがんばりました。

作業学習では、長い時間、刻印やかかり縫い、革の色染めをすることができるようになりました。

3年生の実習では、歩行訓練やタオル体操、フルーツキャップ折り、買い物訓練など、いろいろな作業をすることができました。

4月からは、事業所に通います。これからも運動や家の手伝いをがんばりたいです。

今年度の進路指導を振り返って

小学部教諭 横山 奈美子

小学部では、身の回りのこと、集団生活への参加、人とかかわり等、この時期の生活を自分のできることを生かして行えることを進路指導の目標に掲げて取り組んでいます。

ここでは、6年生が集団活動の一つとして取り組んだ合同学習の様子を紹介します。2チームに分かれて風船運びリレーを行い、風船を運ぶ順番やペアは各チームで相談して決めるようにしました。子供達は相談の経験を積み重ねていくことによって、やりたい順番など自分の思いを伝えるだけでなく、友達の話も聞き入れて順番を譲る姿が見られるようになりました。また、協力して風船を運んでも負けることがあるなど、自分の思い通りにいかない場面でも「仕方ないな。」と気持ちを収める姿も見られるようになりました。

毎日の学習や生活の中で、子供達は成長を重ねてきました。この積み重ねが今後の進路指導の基礎となり、更に将来の自立的な生活をする力に結びついてほしいと思います。

中学部教諭 大場 文博

中学部では、進路学習の一つとして作業学習を行っています。今年度は木材加工や農業、紙工などの活動に取り組みました。10月には2週間の校内実習を行い、返事や報告について学習したり、道具の使い方のスキルアップに取り組んだりしました。また、製品を「だてっこみらいフェスティバル」で販売することで、製品が売れたり喜ばれたりするよさや大切さを実感することができました。

中学部3学年については、高等部の校内実習の作業学習を見学する機会があり、どんな仕事をしているのか身近で見たり、作業学習に向かう姿勢や態度について話を聞いたりすることができました。高等部の生徒が一生懸命に作業に取り組む姿は進路について考える良い機会となりました。

中学部での学習を通して培ったたくさんの力を、卒業後の生活に生かし、充実した日々を送ってほしいと願っています。

高等部教諭 野地 宏

今年度の3年生11名は自分の進む道が定まり、本日卒業証書を手に入れました。これから先は社会の一員として、みなさんは新たな一步を踏み出します。

振り返るとだて支援学校高等部で過ごした2年間、みなさんはロールプレイングゲームの主人公に似ているなど思いました。2年生の時点では何にも太刀打ちができない、どうしてよいのか分からず、不安な気持ちが多かったと思います。しかし、産業現場等における実習や進路講話、先輩の話を聞く会や販売会、だてっこマルシェなど、日頃の学校生活で様々な経験をし、自分の経験値を高めたことで、自らの進路を自らの手で切り拓き、次のスタート地点へと辿り着きました。

4月からは社会人1年生。この先、悩んだり困ったり苦しんだりすることがきっとあると思います。そのような時はこれまでの経験を糧として乗り越えていくだけでなく、周りの方に「助けてください」と言える「自立」した大人になってください。

結びに、今日までの2年間、保護者の皆様におかれましては、御理解、御協力、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

